様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：３４４２８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０３３８９

研究課題名（和文）戦時・占領期日本における経済学者の社会的活動－「荒木光太郎文書」の分析より

研究課題名（英文）Economists' social activities in wartime and occupied Japan: The analysis of " Mitsutaro Araki Papers"

研究代表者
牧野　邦昭（Makino, Kuniaki）

摂南大学・経済学部・准教授

研究者番号：２０５８２４７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：戦前に東京帝国大学経済学部教授を務めた経済学者である荒木光太郎の旧蔵文書である名古屋大学所蔵「荒木光太郎文書」の整理・デジタルデータ化と公開を行うとともにそれを用いた研究を行った。荒木のかかわった数多くの活動や組織の中で、特に戦時期日本の有力なシンクタンクであった世界経済調査会の設立経緯と活動、太平洋戦争末期における大蔵省戦時経済特別調査室における石橋湛山らが関わった戦後構想、大蔵省理財局国家資力研究室や財団法人国家資力研究所における国民所得研究、荒木光太郎が関わったナチス期の日独文化交流などについての研究を行い、大きな成果を上げ論文や著書として刊行することができた。

研究成果の概要（英文）：The "Mitsutaro Araki Papers" were formerly in the possession of Mitsutaro Araki, an economist who served as professor in the economic department of the Tokyo Imperial University, and which are now stored at Nagoya University. We sorted and digitalized the papers and released them to the public.
We used these papers in our studies on (1) the Institute of World Economy, which was a representative think tank in wartime Japan, (2) the Wartime Economy Special Research Office in the Ministry of Finance, and Tanzan Ishibashi's attempt to establish postwar international order after Japan's defeat at the end of the Pacific War, (3) national income research at the National Economic Resource Laboratory in the Ministry of Finance and the National Economic Resource Institute, and (4) Japanese-German cultural exchanges during the Nazi period. We published many results of these studies as papers or books.

研究分野：経済思想史

キーワード：荒木光太郎　荒木光太郎文書　大蔵省戦時経済特別調査室　世界経済調査会　国家資力研究所　国民所得　石橋湛山　国際交流

１．研究開始当初の背景

戦時期を中心とする近代日本の経済学者の活動については、これまでは表面的な言説の分析が中心で、イデオロギー面から注目されることが多かった。一方、経済学者は学術論文を書いたりメディアを通じて自分の意見を表明したりするだけでなく、各種の公的な委員会委員として経済政策の実務に関係することも多い。経済学者が社会に影響を与える経路としては、論文や著書を通じた影響のほか、こうした政策実務への関与の実態を明らかにすることが不可欠である。しかし政策面における経済学者の行動は官公庁や公的団体の内部で行われることが多いので資料が公表されない限りその実態は把握しにくく、特に資料が多く破棄されてしまった戦時期の日本についてはこれまで研究の対象とすることが難しかった。

一方、2013 年から本格的な資料整理と資料の内容の分析作業が開始された名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室（以下、センター資料室）所蔵「荒木光太郎文書」の分析では、資料の写真撮影・共有を進めることで共同作業の迅速化を行った。その結果、荒木は「日本と海外（特にドイツ）」、「学界と財界・官界」、「学界における様々なイデオロギー」などの異なる領域を結びつける役割を果した人物であり、こうした「荒木ネットワーク」が想像以上に日本の経済学の制度化や経済政策に大きな影響を与えていたことが明らかになった。また「荒木光太郎文書」は戦時中の日本の経済学者の官公庁等における実際の活動を知る上で不可欠なものであることが判明した。そのため、同文書を用いることで、これまでは表面的な言説の分析が中心で、イデオロギー面から注目されることが多かった「経済学者と時代との関わり」さらに「経済学者のネットワーク」を、様々な機関の内部資料から明らかにすることが可能になる。この際、貴重な資料の電子化をさらに進めることで、研究の迅速化を図るとともに、それをインターネット上で公開することで他の研究者からのアクセスを容易になると考えられ、本研究を開始した。

２．研究の目的

本研究は戦前に東京帝国大学教授を務めた経済学者の荒木光太郎が残した名古屋大学所蔵「荒木光太郎文書」を電子化すると共に、それを利用して荒木を中心とするネットワーク（荒木ネットワーク）の実態を解明しようとするものである。「荒木光太郎文書」には荒木が関係した官公庁など様々な機関の内部文書が含まれており、その分析を通じて荒木が様々な異なる分野や人物を結びつける重要な役割を果していたことが明らかとなってきた。これまで表面的な言説の分析が中心であった戦時・占領期の経済学者の活動の一例を、内部文書を用いて分析し、また他の研究者にアクセスしやすいように電子化して公開することで、関連する研究を活性化させ、また官公庁等との連携研究はどのように行われているのかという現代的意義を明らかにしようとした。

３．研究の方法

「荒木光太郎文書」は非常に多くの領域に関係するものであるが、本研究では大きく「国民所得と国民生活」「通貨、金融」「対外関係」の三テーマに焦点を当てて「荒木ネットワーク」の具体像をさらに解明するとともに、関連する経済学者、官僚などの活動やその相互作用を明らかにすることを試みた。

多様な種類の資料を含む「荒木光太郎文書」の分析には経済思想史、経済史、政治史、社会運動史など様々な分野からのアプローチが必要であるが、本研究の研究代表者・研究分担者・研究協力者はこれらの分野を網羅しており、分担によって効率的な研究を行うことができた。またそのために必要な資料の電子化を進め、研究会を定期的に開催して情報共有を行った。また「荒木ネットワーク」の及ぶ分野の広さに対応して国内における各種資料調査を行った。最終年度は経済学史学会での研究参加者によるセッション発表を行い、外部の研究者を交えて議論を行った。

４．研究成果

(1)「荒木光太郎文書」の範囲を確定させるためにセンター資料室所蔵の他の資料の調査を行った。その際、近畿大学中央図書館に所蔵されている荒木光太郎旧蔵書の調査を行うことにより同蔵書の表紙や見返しの蔵書ラベルなどを参考にして「荒木光太郎文書」への編入を行った。

こうして「荒木光太郎文書」であることが確定できた資料については科研費を用いてデジタル撮影を行い、デジタルデータ化が完了した。その一部はセンター資料室ホームページおよび名古屋大学学術リポジトリを通じて公開しているほか、センター資料室ホームページ上でデジタル資料が利用できる旨を公表しており、また必要に応じて研究分担者・協力者間でデータの共有を行って共同研究に役立てた。さらに資料調査の結果、2014 年に刊行した『荒木光太郎文書解説目録』における解説や分類も追加したり修正する必要が生じたため、近畿大学及び名古屋大学への荒木光太郎関係資料の収蔵の経緯も解説に追加したうえで 2018 年 5 月に『荒木光太郎文書解説目録　増補改訂版』を刊行し、センター資料室ホームページ上でも公開している。

(2)「荒木光太郎文書」中最大の分量を占めるのが世界経済調査会の資料であり、同会の設立経緯と活動内容に関する研究を行った。世界経済調査会の前身である日本経済連盟会対外事務局は革新的傾向の強い軍人や官僚が知米リベラリストを担いで主にアメリカに対して対日理解促進と外資誘導を目指して設立されたものであるが、対米関係の悪化に伴い調査機能が拡充され、調査活動に特

化した形で改組拡大され 1941 年 5 月に世界経済調査会が設立された。
(3)「荒木光太郎文書」中の大蔵省戦時経済特別調査室関係資料の分析を行い、特に同調査室で戦後構想の研究を行った石橋湛山の戦時期の思想と活動の研究を進めた。石橋の国際貿易を重視する思想が戦時中も一貫して維持されてきたこと、石橋が圧力を避けるために政府の公的な大東亜共同宣言などを自身の戦後構想の叩き台としていたことなどが明らかになった。
(4)戦時期の日本における大蔵省を中心とする国民所得研究とそこに関わった組織・人物の研究を行った。日本では昭和初期から内閣統計局により国民所得推計が行われていたが、1941 年 7 月に閣議決定された財政金融基本方策要綱において、国家資力（事実上の国民所得）を測定しそれを各分野に配分する国家資金基本計画を設定することが決められて以降本格的に国民所得推計研究が進められた。1941 年 9 月に大蔵省理財局に荒木光太郎を室長とする国家資力研究室が設置され、当時大蔵省事務官だった下村治や女性マルクス経済学者の渡辺多恵子らが参加した。さらに研究機能の拡充を図るため 1943 年 9 月に財団法人国家資力研究所が設立され、インフレーション対策としてサミュエルソンの乗数と加速度原理を組み合わせた景気循環論などの当時としては高度な経済理論の研究が行われていたことが判明した。渡辺多恵子は同研究所において国民所得推計の作業に加えて、各資金への配分を明示する資財循環表・資金循環表の作成も担当するなど大きな役割を果たした。
（5）荒木光太郎が大きな役割を果たしたナチス期における日独文化交流の研究を行った。「荒木光太郎文書」中に含まれている「全獨日本人文化事業關係者會議ニ關スル報告書」（1936 年）ではドイツにおける「日本学」が古文学と言語学とに偏っていることが問題視されており、今後はナチス政権のように中央集権的な統一機関のもとで「文化工作」を計画的に行うべきであると主張されていた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）
① 小堀　聡、日中戦争期財界の外資導入工作―日本経済連盟会対外委員会、経済論叢、191 巻、2017、pp.77-96。

② Makino, Kuniaki, Japanese Economists on Imperialism and Total War: Tanzan Ishibashi and His Peers, 経済学史研究、査読有、59 巻、第 1 号、2017、pp. 1-20。

③ 小堀　聡、荒木光太郎、日本歴史、839 号、2018、pp.84-87。

④ 牧野　邦昭、石橋湛山の戦後構想―「大西洋憲章」「大東亜共同宣言」「大東亜大使会議宣言」との関係を中心に、自由思想、148 号、2018、pp.35-51。

⑤ 恒木　健太郎、日本学をめぐる「對獨文化工作」の動向―「全獨日本人文化事業關係者會議ニ關スル報告書」（1936 年）について、専修大学人文科学年報、48 号、2018、pp. 153-168。

〔学会発表〕（計　14　件）
① 小堀　聡、日中戦争期財界の外資導入工作―日本経済連盟会対外委員会、平成２８年度 第 6 回近畿大学経済研究会、2016。

② 小堀　聡、忘れられた経済学者荒木光太郎と名古屋大学「荒木光太郎文書」、SIA 土曜塾（佐々木インターナショナルアカデミー）、2016。

③ 小堀　聡、名古屋大学「荒木光太郎文書」の由来と概要、課題設定型ワークショップ：社会経済研究（名古屋大学）、2016。

④ 小堀　聡、日中戦争期財界の対外宣伝・調査活動―日本経済連盟会対外委員会、経済史研究会（東京大学）、2016。

⑤ 小堀　聡、日中戦争期財界の対外宣伝・調査活動―日本経済連盟会対外委員会、専修大学社会科学研究所定例研究会、2016。

⑥ 小堀　聡、対外宣伝機関からシンクタンクへ―戦時期の世界経済調査会、経済学史学会第 81 回大会、2017。

⑦ 牧野　邦昭、革新官僚の情報収集活動―戦時生活相談所と財政金融協会、専修大学社会科学研究所定例研究会、2016。

⑧ 牧野　邦昭、帝国主義・総力戦と日本の経済学者（石橋湛山とその周辺）、経済学史学会第 2 回共通論題研究会、2016。

⑨ 牧野　邦昭、帝国主義・総力戦と日本の経済学者（石橋湛山とその周辺）、経済学史学会第 80 回全国大会共通論題「戦争と経済学」（招待講演）、2016。

⑩ 牧野　邦昭、高橋財政期の石橋湛山と高橋亀吉、平成 28 年度第６回近畿大学経済研究会、2016。

⑪ 牧野　邦昭、帝国主義・総力戦と日本の経済学者―石橋湛山とその周辺、第 2 回

「戦争と経済学」研究会、2017。

⑫ 牧野　邦昭、戦時期日本の国民所得研究、経済学史学会第 81 回大会、2017。

⑬ 牧野　邦昭、石橋湛山の戦後構想：名古屋大学所蔵荒木光太郎文書「大蔵省戦時経済特別調査室」資料より、日本経済思想史学会 2017 年度第 2 回例会、2017。

⑭ 藤井　祐介、渡辺多恵子と国家資力研究所、経済学史学会第 81 回大会、2017。

〔図書〕（計　4　件）

① 八木　紀一郎・柳田　芳伸・牧野　邦昭他、昭和堂、埋もれし近代日本の経済学者たち、2018、320。

② 牧野　邦昭、新潮社、経済学者たちの日米開戦―秋丸機関「幻の報告書」の謎を解く、2018、270。

③ 小堀　聡・牧野　邦昭　他、名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室、荒木光太郎文書解説目録　増補改訂版、2018、133。

④ 小堀　聡、新技術振興渡辺記念会、「資源調査会再訪」同会編『資源調査会の再評価と現代的意義（仮）』、2019。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
荒木光太郎文書
http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/erc/collection/araki.html

６．研究組織

(1)研究代表者
牧野　邦昭（MAKINO, Kuniaki）
摂南大学・経済学部・准教授
研究者番号：20582472

(2)研究分担者
小堀　聡（KOBORI, Satoru）
名古屋大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号： 90456583

恒木　健太郎（TSUNEKI, Kentaro）
専修大学・経済学部・准教授
研究者番号： 30456769

中井　大介（NAKAI, Daisuke）
近畿大学・経済学部・教授
研究者番号： 70454634

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
藤井　祐介（Fujii, Yusuke）
白井　聡（Shirai, Satoshi）